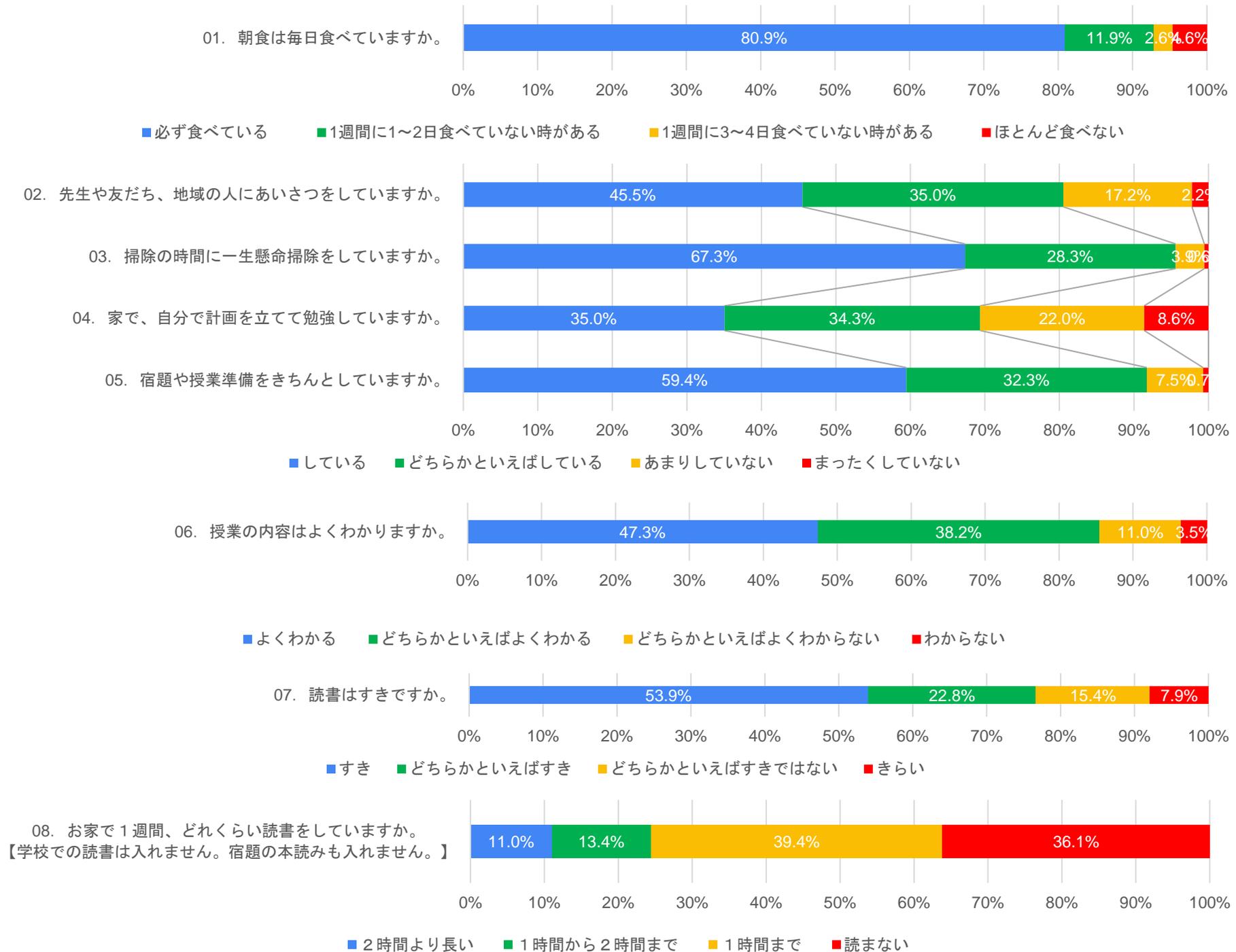
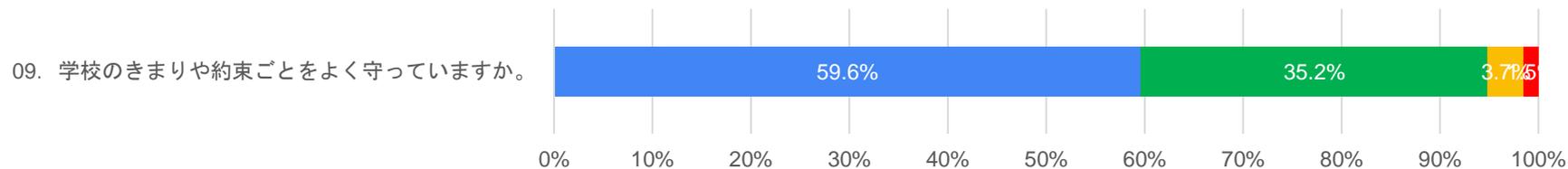
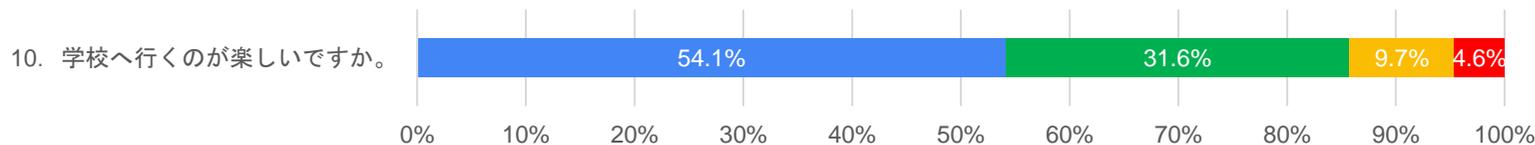


加古川市立平岡南小学校 令和6年度 学校評価 児童アンケート 集計結果

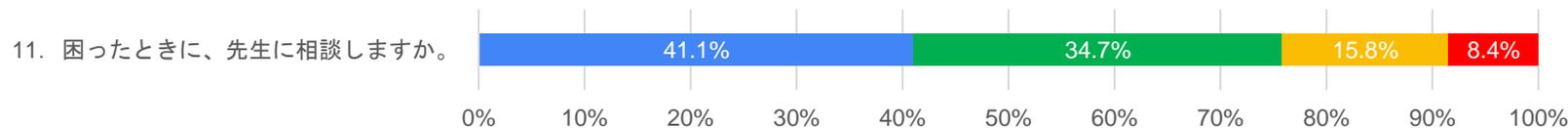




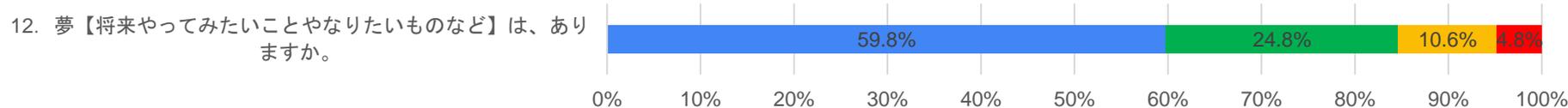
■ 守っている ■ どちらかといえば守っている ■ あまり守っていない ■ 守っていない



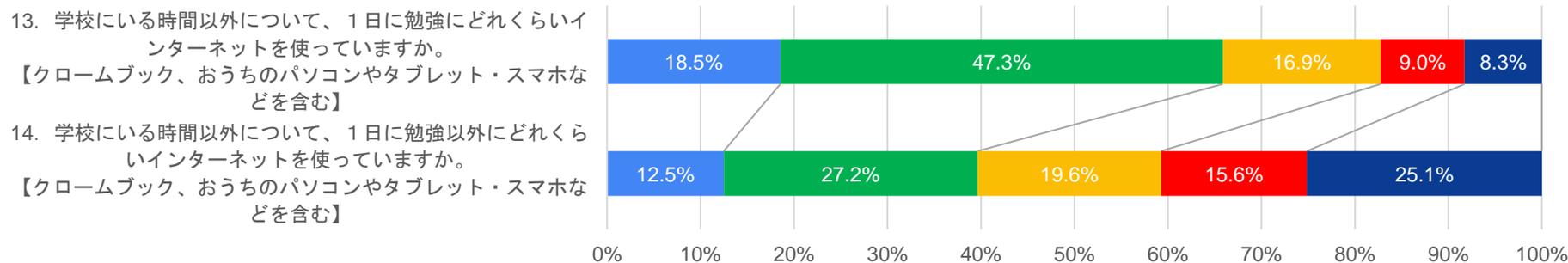
■ 楽しい ■ どちらかといえば楽しい ■ どちらかといえば楽しくない ■ 楽しくない



■ する ■ どちらかといえばする ■ どちらかといえばしない ■ しない

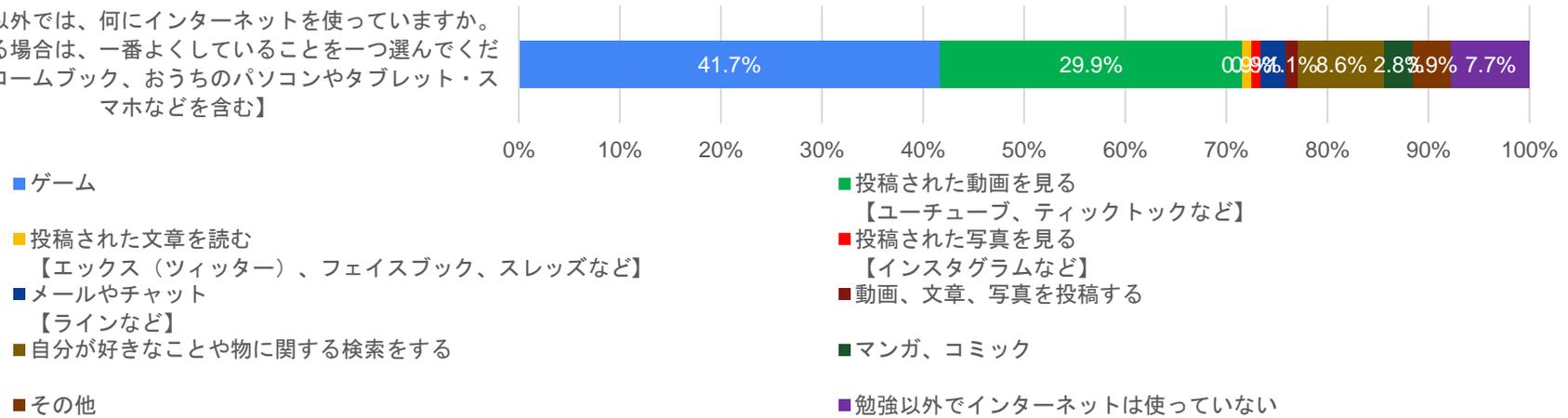


■ ある ■ はっきりではないが、なんとなくある ■ 特にないが、これから考えたい ■ 特にないし、考える予定はない

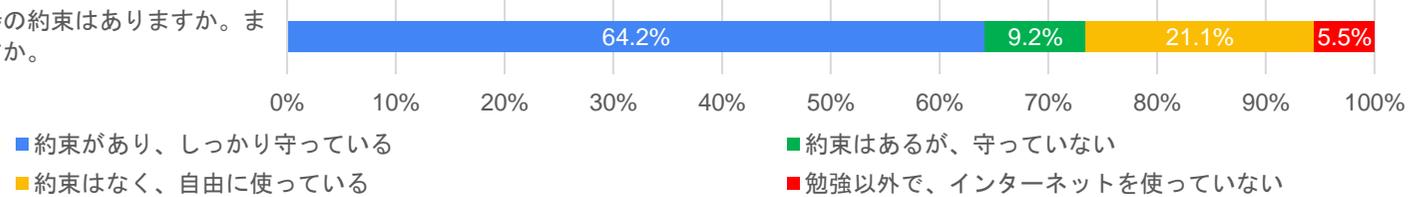


■ 0分【使っていない】 ■ 0～30分くらい ■ 30分～1時間くらい ■ 1時間～2時間くらい ■ 2時間より長い

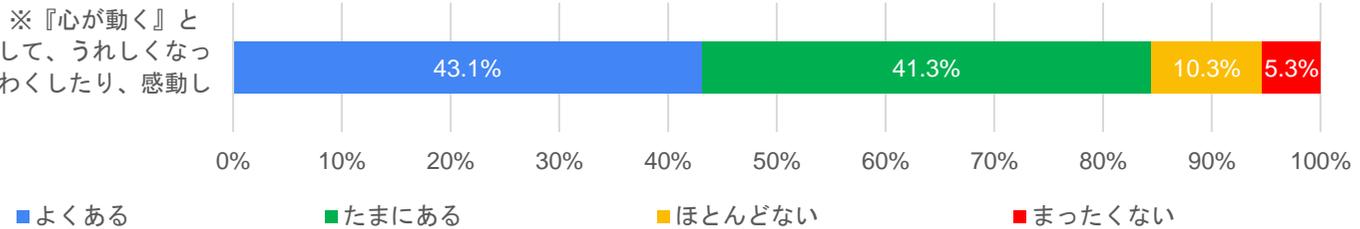
15. 勉強以外では、何にインターネットを使っていますか。いくつかある場合は、一番よくしていることを一つ選んでください。【クロームブック、おうちのパソコンやタブレット・スマホなどを含む】



16. 家で、インターネットを使う時の約束はありますか。また、守っていますか。



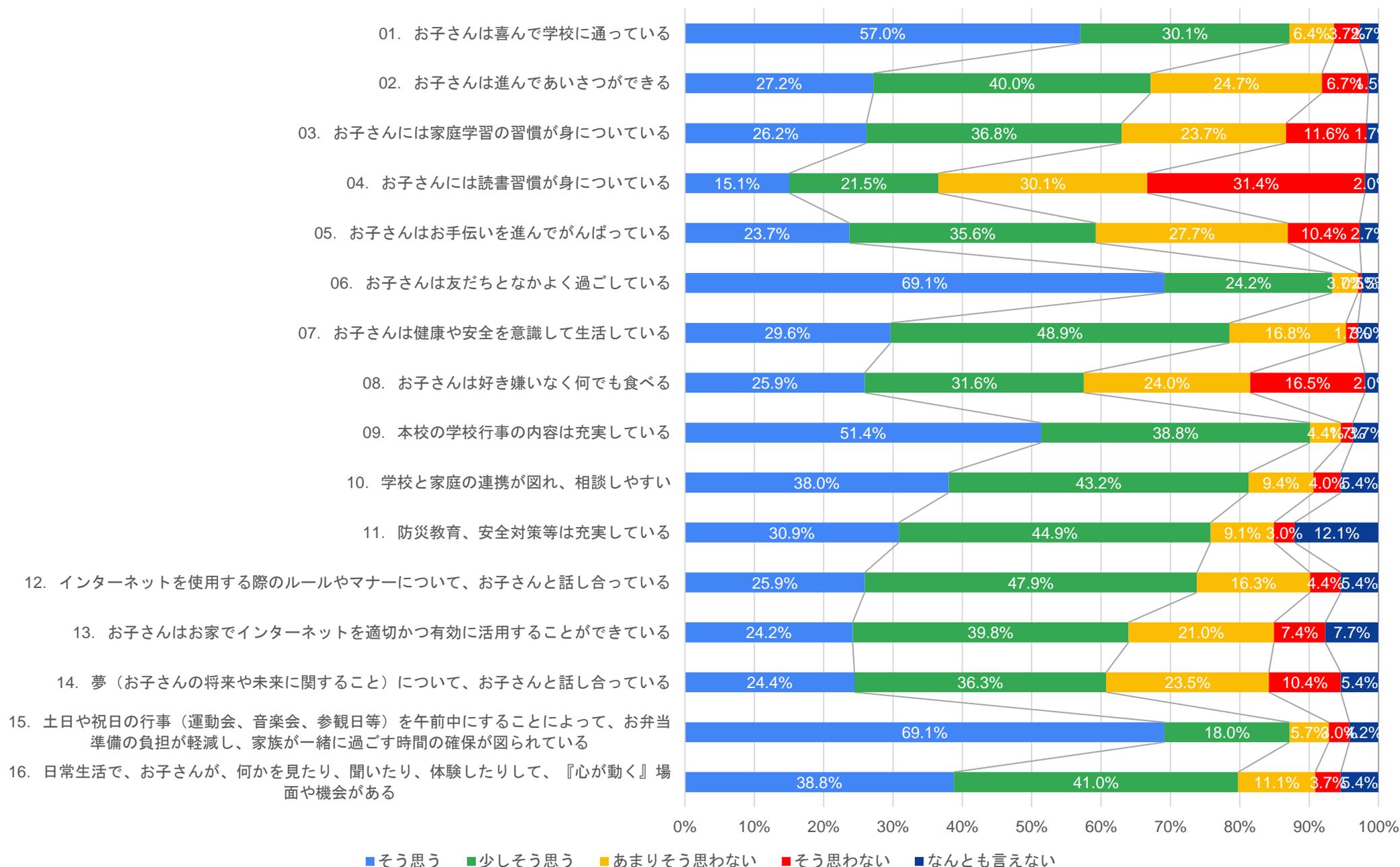
17. 『心が動く』ことはありますか。 ※『心が動く』とは・・・何かを見たり聞いたり体験したりして、うれしくなったり、しあわせな気持ちになったり、わくわくしたり、感動したりすることなど



18. 1か月に、どれくらいに数の本を読みますか。朝の時間や図書の時間や休み時間や家にいる時に読んだものを数えましょう。電子図書館で読んだものも含めます。【マンガ、雑誌、新聞、教科書は数えません。】

平均値・・・15.5
 中央値・・・7
 最大値・・・300
 最小値・・・0

加古川市立平岡南小学校 令和6年度 学校評価 保護者アンケート 集計結果



1. 教育目標 自ら学び続ける心豊かな子どもの育成

2. 基本方針 ～生きる力を育てる教育活動の充実～

3. 学校づくり

めざす学校像 ① 子どもが行きたい学校 ② 保護者・地域が通わせたい学校 ③ 教職員が働きたい学校

めざす児童像 ① すすんで学ぶ子 ② 思いやりのある子 ③ たくましい子 ④ やりぬく子 ⑤ 夢を語れる子

評価基準 A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない E:わからない

重点取組	評価項目	達成状況	成果と改善の方策 (自己評価)	自己評価の適切さ (関係者評価)	達成状況
子どもが行きたい学校	◇児童理解への努力 ◇いじめ・不登校・問題行動等の早期発見・早期対応・未然防止への取組 ◇アンケート・教育相談の実施	A	日々の様子の記帳や、いじめ相談アンケート等を利用した取組が進み、児童の成長や対人関係に良い影響を与えている。また、職員と児童との関係も概ね良好であり子ども達が主体となった児童会活動も活発である。	学習面での満足度が高いと学校への肯定感が増すので、評価の対象としたい。一方、不登校児童対応には職員だけでなく、民生委員等地域の力を積極的に活用してはどうか。個人情報に配慮しながらも、子どもの情報を共有していく方策を探りたい。	A
保護者・地域が通わせたい学校	◇地域とともにある学校づくり ◇相談・要望等への適切な対応 ◇校舎内外や校庭等の美化	B	職員と地域との交流が挨拶程度にとどまっているため、地域との連携や学校支援ボランティアとの協力体制を強化したい。一方、意見や要望等への対応は真摯であり、うれしい話が伝わってくるようになった。	保護者が子どもをしっかり見守り、学校との連携を深めるためにも間口を広げたい。懇談等の機会を活用し、学校生活についての理解を促すことも大切である。思いやりの心を育みたい。美化活動や除草作業には地域が協力をしていく。	B
教職員が働きたい学校	◇実践的指導力向上への研修 ◇風通しの良い職場環境づくり ◇業務改善・勤務時間の適正化への取組	A	実践力向上に向けた研修や授業研究は、若手の育成にも有効である。また、職場の風通しがよく、職員間での協力やアドバイスが円滑である。早朝や勤務時間後の働き方を改善したい。	職員はいつも頑張っているし、コミュニケーションが取れていると感じている。研究授業等熱心な取組なので、研究テーマをオープンにしてはどうか。また、開かれた学校と無理を聞くことは別である。学年主任や管理職に負担のかからないように、配慮を求める。	A
夢を語れる子	◇在りたい自分の実現 ◇夢をもつ良さを語りかける キャリア教育の推進	B	自分の夢が実現できないと悩む児童が多い。また、夢を言語化することが難しい児童も見られた。職員が夢を描けているのか、まず自問自答したい。	とてもいい活動で、子どもが夢を考え人に伝える機会が増えていると感じる。夢を言語化する難しさは、読書離れと無縁ではないと思う。今後は【保護者への啓発】に取り組み、親子で夢を共有できるようにしてほしい。	A